

2008年秋季講演会報告

九大LOC実行委員長 関谷 実¹

2008年11月1日から3日にかけて、九州大学箱崎キャンパスで秋季講演会が行われました。いろいろ不行き届きのところがあったとは思いますが、大きな混乱もなく、学会を終えることができました。ご協力ありがとうございました。

9月末に事前参加を締め切りましたが、申し込み者数はこちらの予想を下回り、赤字を出すのではないかと少し焦りました。しかし、当日の参加者が多くて、最終的にはこちらの予想を上回る193名の方にご参加いただきました。

発表数は、一般講演148件(口頭85件、ポスター63件)、最優秀発表賞エントリー講演7件(口頭&ポスター)、最優秀研究者賞特別講演1件で、総講演数は156件でした。このように発表数が多かったため、一般口頭講演を質疑を含めて10分にせざるをえませんでした。また口頭希望で申し込まれた方にポスターに回っていただいたり、ポスターを各日張替をいただくというご不便をおかけすることになりました。10分では十分に話せないという発表者のご不満も聞こえてきましたが、逆にコンパクトに要点が聞けて良かったという声もありました。せめてポスターが張りっぱなしにできるとよかったです。予算の制約上、張替はやむをえませんでした。参加者は今後さらに増え続けていくことでしょう。講演時間をどれだけ短くすることに耐えられるかということが大きな議論になると思います。しかし、パラレルセッションにすると、異なる専門を持つ研究者が「惑星」というキーワードで科学を共有する本学会の存在意義自体がなくなると思われますので、今のスタイルをぎりぎり(6分講演?)までは続けていくべきだと考えています。

今年の秋季講演会の特徴としては、「かぐや」の初期成果が出始めて、関係する発表が多かったことがあ

げられます。JAXAによる「かぐや」に関する展示も行われました。最優秀発表賞セッションは例年学生の方々の素晴らしい講演が楽しみですが、今年もとても充実した内容と素晴らしいプレゼンテーションが多かったと思います。最優秀研究者賞のセッションでは、2007年度最優秀研究者賞を受賞されたお二人の内、長沢会員の受賞講演が行われました。目の覚めるような素晴らしい講演内容で、会場にいる若い人たちにもよい刺激になったのではないかと思います(もう一人の受賞者の生駒会員はどうしてもご都合がつかずに講演いただけませんでした。2009年の講演会でよろしくお願ひします)。

さて、LOCをやっていて、いろんな人に「今年は惑星科学会で大変ですね」と声をかけられました。確かに大変でした(特に前日から当日にかけての4日間は嵐のように!)。しかし、九大はLOCの人数が結構多かったもので、まだ楽な方だったと思います。過去に少人数で乗り切られた方々には敬意を表したいと思います。

最後に、さまざまなご指南をいただいた行事部会や情報部会の方々、ボランティア精神にうち溢れて一緒に汗を流していただいたLOCの仲間にお礼を申し上げて、報告を終わらせていただきます。

1. 九州大学大学院理学研究院地球惑星科学部門